



## 商品に関して

**Q1. JAPAN漆喰の原材料は何ですか？**

- A. 消石灰（石灰石を焼成し消化したもの）、つのみた糊（天然海藻糊）、麻スサの3種類が主原材料です。JAPAN漆喰は不純物が入っていない天然素材100%の漆喰です。  
※JAPAN漆喰は品質証明書を開示しています。

**Q2. JAPAN漆喰はどのようにして作られていますか？**

- A. 伝統的な塩釜工法によって石灰石を焼成しています。岩塩を入れることで、結晶成長の促進と純白度が上がります。焼成した真っ白な石灰石を生石灰と言い、水を掛けると粉末状の消石灰になります。消石灰に糊（つなぎ）のために「つのみた糊」、ひび割れ防止のための「麻スサ」と水を混ぜると練上がった漆喰が完成します。JAPAN漆喰は骨材も一緒に混ぜています。  
※詳細はホームページを参照してください。

**Q3. 他の天然素材100%の漆喰との違いは何ですか？**

JAPAN漆喰の石灰石は栃木県佐野市の鉾山から取れた石灰石を使用しています。純国産で採掘～製造まで一貫しているのは日本国内に4社しかありません。JAPAN漆喰は上記に記載した原材料にこだわった漆喰ですが、既に練った状態になっており、又、骨材（寒水石）を混入してある事で使いやすさと表情の豊かさを追求した漆喰です。

多少、化学成分が入っている塗り壁材でも自然素材100%と謳っているメーカーもあります。天然素材100%と謳っていても、実際は純100%ではないのも事実です。漆喰にカラーバリエーションがあり、色ムラの危険性を謳っていない漆喰は天然素材100%のしっくいではありません（下記Q&Aの「JAPAN漆喰にはなぜカラーバリエーションが無いのですか？」を参照）

**Q4. JAPAN漆喰は余ったら保存できますか？**

- A. 空気と遮断すれば保存が可能です。  
未開封の状態ですと2年間は保存できます。

**Q5. JAPAN漆喰にはなぜカラーバリエーションが無いのですか？**

- A. 着色する事は可能ですが、推奨しておりません。  
着色材を入れる事により不純物が入ること、又、石灰は低温時+湿度が高いと白華を起こします。白華が起きると石灰の白い成分が遊離石灰をして表面にでてきます。そのため表面が白くなってしまいますので、色ムラの原因となります。  
このような条件下でなければ色ムラは発生しませんが、事前にクレームを避けるために着色材を販売しておりません。

**Q6. JAPAN漆喰とビニールクロス compares を教えてください。**

A. 下記に簡単にまとめてあります。

	JAPAN漆喰	ビニールクロス
原材料	天然素材100%	化学物質含む
耐久性	◎	X (接着剤が劣化し剥がれる)
不燃性	◎	○
耐火性	◎	X
調湿性	◎	X
消臭性	◎	△ (消臭性能のクロスも有)
抗菌・防カビ性	◎	△ (抗菌性能のクロスも有)
VOC分解・吸着	◎	X
施工性	△	◎
素材感/高級感	◎	X

**Q7. JAPAN漆喰 (天然素材100%) と天然素材100%珪藻土って何が違いますか？**

A. 下記に簡単にまとめてあります。

	JAPAN漆喰	珪藻土
原材料	石灰石+糊(海藻)+すさ	藻類の1つの珪藻の土+固化材
自硬性	勝手に固まる	無(固化材を入れないと固まらない)
耐久性	強い(CO2と反応し年々硬くなる)	弱い
不燃性	◎	◎
耐火性	◎	◎
調湿性	△	◎
消臭性	◎	X
抗菌・防カビ性	◎	X
VOC分解・吸着	◎	X
耐水性	◎	X
施工性	△	○

調湿性能は「珪藻土」の方が断然優位です。JIS規格で24時間で70g/m<sup>2</sup>以上の調湿性能がある建材を調湿建材として認定していますが、珪藻土は200g/m<sup>2</sup>以上の物もあります。漆喰はJIS規格を満たす調湿性能はありませんが、クロスと比べると10倍以上の調湿効果があります。

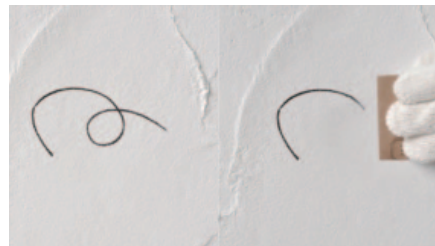
消臭・抗菌・防カビ効果は「漆喰」の原材料の消石灰が強アルカリ性のため、消臭・抗菌・防カビ VOC吸着効果に優れております。「珪藻土」はこのような効能は持っていません。

**Q8. 漆喰って真っ白なので汚れませんか？**

- A. 漆喰は無機質なので、静電気を帯びる事がなく、埃を吸い付けない性質を持っています。永く住んでいると手垢や木材の収縮によってクラックが入ったりする可能性があります。

**Q9. 汚れたらどうすればいいですか？**

- A. 照明のスイッチ周りなどの手垢汚れは固く絞った雑巾と消しゴムで落ちます。始めに雑巾で汚れを拭取り、消しゴムで消していきます。  
消しゴムで落ちない汚れの場合は#400番程度のサンドペーパーで軽く磨いてください。

**Q10. 傷がついたらどうすればいいですか？**

- A. 漆喰をプラスチックの定規などの固く薄いものを使用し、傷んだ箇所に充填します。1~2時間して硬化したら、カッターや定規などで上から下へ綺麗に拭き取ります。ラフに仕上がっている壁面の場合は、鉛筆かスポンジで充填し、仕上げにスポンジで軽く擦って周辺に合わせてください。

**Q12. ひび割れした場合の補修方法を教えてください。**

- A. 幅の広いひび割れは、上記の傷と同様に補修します。  
幅の狭いひび割れは、歯ブラシなどに漆喰を付けて割れた部分に塗り込みます。小さな割れの周辺を予め水で湿らせておくと、より効果的に割れが埋まっていきます。余分な漆喰は綺麗に拭き取りましょう。翌日には硬化していますので、上から#400番程度のサンドペーパーで軽く磨いておけば、割れは目立たなくなります。



**Q11. JAPAN漆喰は外壁にも施工できますか？**

- A. JAPAN漆喰には内装用と外壁用の2種類をご用意しております。外壁用は割れを防ぐために樹脂（特殊合成繊維・液体エマルジョン）を混ぜた商品となっております。また外壁用には水剤も含まれております。

**Q12. JAPAN漆喰 外壁用はカビが発生しませんか？**

- A. JAPAN漆喰 外壁用も消石灰が主原材料として入っております。石灰は強アルカリ性の特性を持つため、内装用では防カビ効果を発揮します。外壁においては、酸性雨により、石灰のもつアルカリ性が中和されて失われてしまう可能性があり、カビの発生しやすい環境下では外壁にカビが発生する可能性があります。

**Q13. JAPAN漆喰は元の石灰石に戻っていく循環型とありますがどのように循環していくのですか？**

- A. 漆喰（原材料の消石灰=CaO）は空気中の二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）を吸収して石灰石（CaCO<sub>3</sub>）に数百年掛けてゆっくり戻っていきます。そのため戻った石灰石から再度、漆喰を製造できるという意味での循環です。

**施工に関して****Q1. 施工／使用上の注意点について**

- A. ・ JAPAN漆喰を施工する前には必ず、MK下地シートもしくはMKプラスターを下地材として使用してください。一般的なカチオンシーラー／ホワイトシーラーのようなプライマーは使用しないでください。JAPAN漆喰がシーラーに付着しない事と強アルカリ性によってシーラー材が溶けてしまう可能性があります。
- ・ 冬期間の施工で採暖する場合は、石油ストーブを避け、電気ストーブを利用してください。石油ストーブによる採暖では壁が黄変する可能性があります。
- ・ JAPAN漆喰施工の場合は、材料が強アルカリ性のため、必ず手袋を着用して施工してください。素手にJAPAN漆喰が付着すると肌荒れの原因になります。

**Q2. MK下地シートを推奨する理由は何ですか？**

- A. 石膏ボード全体をシートで覆うことにより、継ぎ目の無い一枚下地となり、ひび割れ防止の効果が高まります。せっこうボードなどのジョイントや下地素材の違いがあってもシートを貼る事で同一の下地となり、吸い込み違いによる色ムラが発生しにくくなります。又、パルプ繊維を多く混入しているので、引張強度・破裂強度に優れています。これらの点を踏まえて、JAPAN漆喰の下地にはMK下地シートを推奨しております。

**Q3. ビニールクロスの上から施工できますか？**

- A. 現在、リフォーム向けのMKプラスターを開発しております。このリフォーム向けのMKプラスターをビニールクロスの上から施工した後、JAPAN漆喰を施工する事が可能です。
- ※リフォーム向けMKプラスターは2020年7月頃発売予定です。